

第二回フランス語海外語学研修実施報告

—今後の発展に向けて—

畠田美有紀

キーワード：フランス語、海外語学研修、第二外国語

1. はじめに

2009年度夏に開始したフランス語研修の二回目の研修を2010年度夏にも実施し、無事に終了した。本稿では第一回の問題点と改善点、それを踏まえて実施した第二回の報告と問題点を分析し、第三回へ向けた改善点と今後の展望について述べる。

フランス語研修は、長崎大学で第二外国語科目としてフランス語を履修している二年生を主な対象としている。この研修で初級以上のクラスに入り、合格した学生は、二年生の後期に履修するフランス語Ⅳの単位との読み替えができる。長崎大学が実施するものではあるが、引率や現地での危機管理には不安があるため、日仏文化協会を通して申し込む。それにより、日仏文化協会が研修についての相談、研修先への申し込み、また保護者への説明を行ってくれる。さらに、現地では日本人スタッフが空港への出迎え、研修先までの案内、ホームステイ先の紹介と調整、病気時の対応などを24時間体制で行ってくれる。

なお、本研修は大学教育センターのフランス語担当教員と国際交流課の職員と筆者の三人が担当した。

2. 第一回研修での問題点

第一回研修は参加者が工学部の二年生1名しかいなかったが、これには二つの要因が考えられる。

一つ目は、参加費である。授業料はさほど高くないのだが、授業料と同額程度の航空運賃がかかるため、研修参加には50万程度必要となる。参加費が高いことに加え、4月末と5月初めに行った説明会から参加申し込み締め切

りまでが一ヶ月しかなく、一ヶ月で高額な費用を払う目途をつけられた学生は、何か必要なときに使うようにと貯金していた学生だけであった。

二つ目の要因は研修説明会の時間と日にちの設定である。時間は授業がない夕方に設定したのだが、アルバイトなどと重なって興味はあっても参加できないという学生がいた。また、4月末と5月初めに説明会を行うことは新学期が始まってすぐに学生に通知しなければならなかったのだが、クラスによっては通知が遅くなったところもあり、学生も予定の調整が難しかったようである。掲示による告知も行ったが、やはり担当教員からの連絡が確実であり、行きたい気持ちを後押しするものと考えられる。その結果、説明会に参加した学生は6名しかいなかった。第一回目の開催であったため、事前の情報が学生側に何もなかったのも理由ではあるが、情報のなさを払拭する努力が必要であったのではないかと思う。

ただ、参加者が1名であったため、研修前説明会はフランス語教員の研究室で個別に行え、飛行機の手配も一人分ですんだのは、教師側としては情報の管理が行き届き、安心であった。

しかし、研修前説明会では研修中の様子について連絡するように伝えていたが、実際には、研修先に着いたという連絡があっただけで、研修中は連絡がなかった。これは研修中にこちらに連絡をしなければならない理由や具体的な連絡方法を確認しておけば、連絡がなくてもこちらから連絡を取って様子を聞くことができたのではないかと思われる。帰国後、研修の様子を聞いたところ、プレースメントテストで指定したクラスより下のクラスにプレースされたものの、クラスの雰囲気よかったため、内容は簡単だったが、そのクラスで勉強することにしたとのことだった。しかし、この研修の目的の一つは単位の読み替えであり、また、今まで学んだことを伸ばすためにも指定クラスに変えるよう指示ができればよかったように思う。

この学生が下のクラスにとどまったもう一つの理由が、帰国後もフランス語を勉強したいと考えていたことである。帰国後もフランス語を勉強するには、単位が取れないほうが良いと判断したと言っていた。個人的に説明していたので、理解されていると思っていたが、単位の申請方法、フランス語を継続的に勉強する方法など、帰国後の勉学についてもより詳しく説明すべきであった。また、思い出したときに見返せるよう、資料として渡しておくべきであった。

3. 第二回研修での変更点

① 研修先の変更

研修費用を安くするために、研修先の変更を検討した。第一回の研修先は私立大学でホームステイ滞在しか提供していなかったため、高額であった。同じような時期に研修が受けられ、寮も提供してもらえる国立大学を探したところ、国立大学のブルゴーニュ大学が該当した。費用は10万円ほど安くなるため、関係委員会での審議を経て、第二回研修はブルゴーニュ大学で行うことになった。

② 説明会の周知方法の改善

説明会をより多くの学生に知ってもらうため、大きく、カラーで目立つポスターを早めに作成した。それを前回同様、各学部の掲示板に掲示してもらうことにした。さらに、説明会の二週間ほど前に同じものをフランス語担当教員に学生の人数分を渡し、授業時に配ってもらうことにした。

③ 説明会の開催時間の改善

説明会の開催時間を夕方ではなく、昼休みの時間に開催することにした。これは二年生はたいてい午前も午後も授業が入っているので、お昼は大学にすることが多いだろうと考えたためである。また、昼休みの短い時間にお昼ご飯を食べながら聞くという形にすることにより、研修に必ず参加するという強い決意を持った学生以外も気軽に聞きに来てくれるのではないかと考えた。

④ 説明会の充実

研修内容が詳しく決まった時点で説明会を行うのでは金銭面に不安のある学生の参加が期待できないため、早い段階から研修があることを知らせることにした。具体的には12月に研修報告会、2月に研修概要説明会を行うことにした。今回の研修に参加した学生に聞くと、12月か2月、あるいはその両方の説明会に参加し、二年生の夏に研修があることを知り、一年生の春休み中にアルバイトして費用を工面するにしたり、親に相談したりしたようである。また、教師側も、研修の概要の説明会と研修の詳細の説明会の二回を設けたことにより、概要説明会では研修を受ける流れを説明し、詳細説明

会ときには具体的に何をどう準備すればいいのか、どのような手続きが必要かを説明する、というように段階を踏んでそれぞれを手短に、しかし、詳細に説明することができた。このように、説明会を二段階にしたことにより、学生は研修までの流れと何をいつまでにすべきかという流れが分かったのではないかと思う。また、何度も説明会を行ったことにより、一回目では来られなかった学生が二回目に来たり、一回目の説明会に行っておもしろいと聞いた友人とともに二回目の説明会に来たりと、説明会を聞きに来る学生の増加にもつながったと思われる。

研修前説明会は、第一回の研修は参加者が一人であったため、フランス語教員が個人的に対応していたが、情報を確実に伝えるため、また第二回は複数の参加者が多いため、日時を設定して四回開催することにした。研修前説明会では渡航前、研修中、帰国後の留意点について詳しく説明ができ、特にクラス分けと単位認定については何度も説明を行った。フランス語教員は現地で役立つフランス語会話の練習を行った。これは普通の授業での復習にもなり、心の準備もできたようである。また、四回顔を合わせたので、他学部の学生同士が顔見知りになり、四回目の説明会の後にフランスのビストロと同じような形式で食事ができるお店に行ってさらに親しくなったことは、研修先での団体行動に役立ったようである。

4. 第二回研修の実施―研修前から研修後までの流れ―

第二回研修の説明会はいずれも夕方ではなく、昼休みに行った。その結果、どの説明会も前回より参加者が多くなった。これは授業の合間であることが多いので、予定が入る学生が少なかったと考えられる。また、昼ご飯を食べながら、短い時間で説明を聞くため、研修に絶対行きたいという強い意志がない学生でも、少し興味があれば気軽に来られたのではないかと思う。学生は以下の流れで説明会に参加し、研修を受けた。なお、研修に参加した学生は9名（工学部2名、教育学部3名、経済学部1名、歯学部1名、環境科学部2名；2年生8名、3年生1名）であった。

① 第一回研修報告会

12月2日に行った。研修に行った学生が報告する予定であったが、病気のため、学生の撮ってきた写真を使ってフランス語教員が話をした。興味のあ

る学生はこの報告会で夏に研修があることを知り、研修の概要についての情報が得られるようにした。第二回は第一回とは派遣先が異なるため、新しい派遣先の説明も簡単に行った。

② 研修概要説明会

期末試験前の1月20日に行った。これは研修の日程と値段、行き方、申し込み方法などの説明で、研修参加に向けて動いてもらうために、金銭面の目途をつけてもらうことを目的としていた。また、フランス語教員の顔を覚えることで、今後円滑に連絡が取れるようにすることも狙いであった。

③ 研修詳細説明会

1月の説明会では値段や航空運賃が概算でしか分からないため、航空運賃や研修の日程がほぼ決まる5月11日・13日に行った。ここに来た学生は研修に行きたいと考えている学生がほとんどであった。研修についての説明を行うとともに、申込書や申請書など研修に必要な書類を渡し、書類提出の締め切りについても説明を行った。

④ 研修前説明会

研修参加を決めた学生を対象に6月10・24日、7月8・22日の四回にわたって行った。ここではフランス語教員による簡単な日常会話の練習とフランス文化・マナーの説明を主に行い、残りの時間で渡航前に必要な物、研修中の留意点、帰国後の流れなどについて説明を行った。

⑤ 研修参加

8月30日から9月24日まで研修に参加した。滞在方法はホームステイと学生寮が選べたが、9名ともホームステイを選んだ。

⑥ 研修報告

10月7日に行い、研修の様子を話してもらった。さらに、12月1日に研修報告発表会を行うこと、その発表会は一年生に聞きに来てもらうこと、一人三枚写真を選んで、その写真について説明してもらうことを説明した。写真は発表会の前にフランス語教員に送り、フランス語教員のコンピュータを使っ

て発表するように伝えた。

⑦ 第二回研修報告会

来年の夏の研修への参加に興味がある一年生を対象として、12月1日に行った。一人三枚程度の写真を選び、その写真について説明してもらった。全員の発表が終わった後に質疑応答を行った。質問の多くは費用と授業に関するものであった。一年生は15名程度聞きに来た。

5. 学生へのアンケート結果から

第四回研修事前説明会終了時に研修前アンケートを、研修報告時に研修後アンケートを行った。研修に参加した学生は九名であるが、説明会に来られなかった学生が一名いたため、八名からの回答を得ている。この二つのアンケートから、学生の研修への期待と研修の評価がうかがえ、今後の研修や研修前後の説明会を考える上で参考になるとと思われる。

5. 1 研修前アンケート

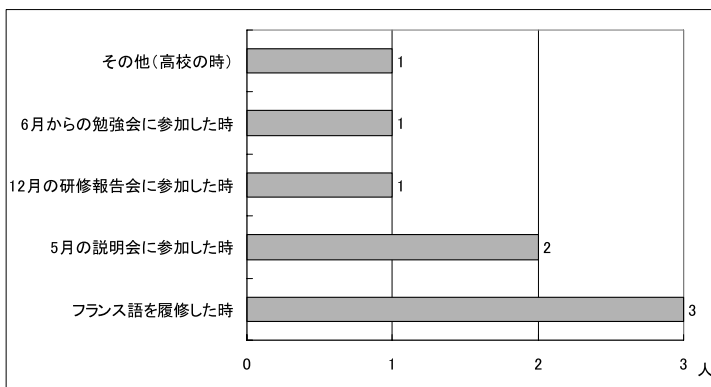


表1 研修への参加を決めた時期

フランス語を履修したときから研修への参加を考えていた学生が最も多かったのは意外であった。フランスへ行きたいから、フランス語を学ぶという学生が多いのかもしれない。こうした学生の希望に応えられるような研修にすることが必要であろう。また、高校のときから行きたいと考えていた学生も

おり、フランスへ行くことに強く希望した学生がほとんどであったと考えられる。しかし、説明会に参加して行きたくなった学生もおり、説明会の効果もある程度あったと言える。

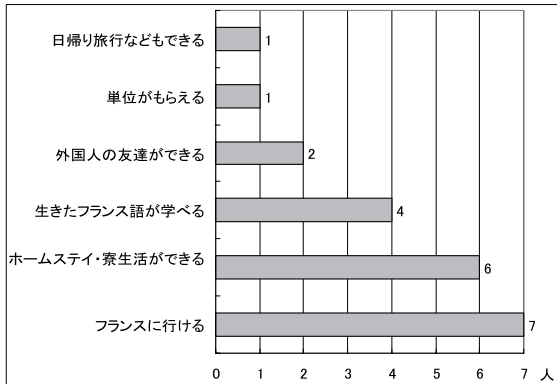


表2 研修の魅力（複数回答）

フランスに行けること自体に研修の魅力を感じる学生が最も多かった。研修で四週間フランスに滞在できるということが魅力となるようである。次いでホームステイ・寮生活ができるが多く、フランス語の勉強以上にフランスに滞在することに魅力を感じている学生が多いことがうかがえる。一方、研修の魅力の一つと大学が考える単位がもらえることには魅力を感じる学生が一人しかおらず、研修で単位取得ができることは学生には大きな魅力にはならないのかもしれない。

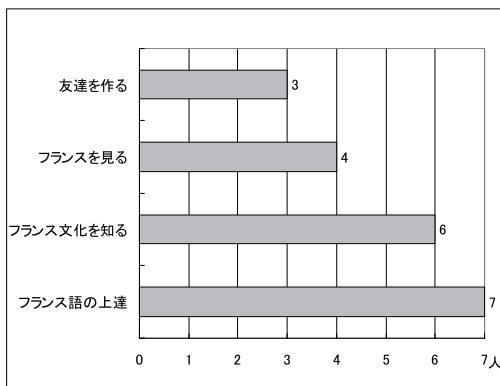


表3 研修で期待すること（複数回答）

フランスへ行けること自体に魅力を感じている学生が多かったものの、研修で期待するのはやはりフランス語の上達が最も多かった。しかし、フランス文化を知る、フランスを見る、といった勉強以外のことにも期待を寄せていたようである。これは四週間もフランスに滞在することでしか得られない経験であり、期待するのは当然であろう。

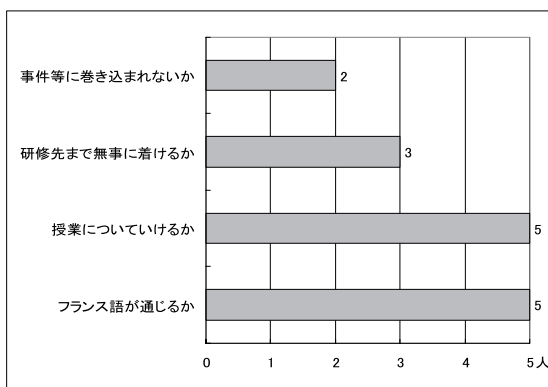


表4 研修で不安に思うこと（複数回答）

研修での不安は言葉と授業が最も多く、事件に巻き込まれないか等、治安に不安を持っていた学生は少なかった。しかし、友人とともに行動しても、

海外は日本とは違うので、危機管理についてはもう少し意識させてもいいと思われる。研修に参加した学生の中には、他の学生が騒がしく、研修に参加している他の国の学生から質問されて恥ずかしかったと言う学生もいた。仲が良くなるのはいいことであるが、集団意識が働いて周りに目を向けなくなり、危機管理がおろそかになるのは問題であろう。

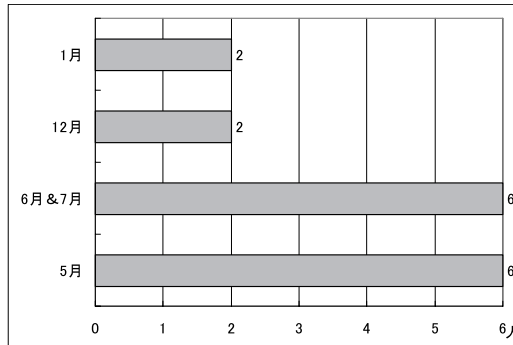


表5 参加した説明会（複数回答）

本アンケートは7月の説明会のときに行ったもので、説明会には八名の学生が来ていたが、なぜか6月と7月の説明会に参加したと答えた学生が七名しかいなかった。それぞれの説明会に行った学生は、その説明会が必要だと感じたようである。このことから、やはり説明会に一人でも多くの学生に来てもらうことが重要であることが分かる。

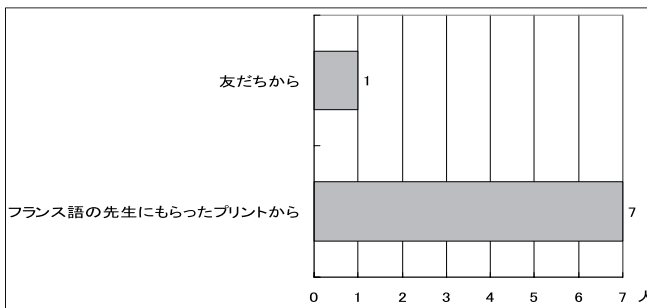


表6 説明会の情報源

授業担当の教員から配られた説明会の案内がほとんどの学生の情報源となっており、授業担当教員との連携が不可欠なことがうかがえる。

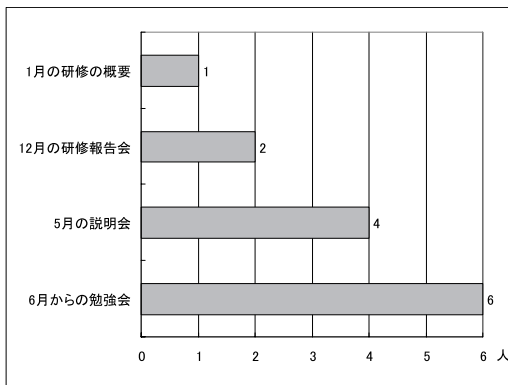


表7 必要な説明会（複数回答）

6月以降の研修前説明会は必要と感じた学生が最も多かったが、全員ではなかった。4回の説明会で何をどこまで説明するかについて再検討する必要がある。

研修説明会で説明してほしいことについては、何も書かれていなかった。学生が必要だと考えていた情報についてはすべて説明した、と理解しているかと思う。

5. 2 研修後アンケート

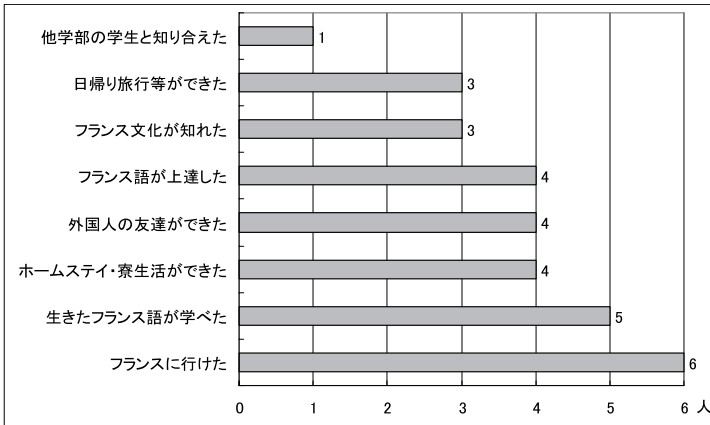


表8 研修でよかったこと（複数回答）

研修前のアンケートで、研修の魅力がフランスに行けることが最も多かったため、研修後のアンケートもフランスに行けたこと自体に満足した学生が最も多かった。研修前はフランス語学習に魅力を感じている学生が少なかったが、研修後はフランス語が学べて満足した学生が多かった。やはり、現地で生きたフランス語を学び、使って上達を実感できたことは貴重な経験となったようである。また、研修前は日帰りの旅行よりも生活自体に魅力を感じていた学生が多かったが、研修後は日帰り旅行にも満足した学生が多かった。日帰り旅行は、大学が提供していたものに参加することもできたが、今回は学生同士で計画を立てて旅行したようである。これは、一人しか参加しなかった前回とは異なる点である。学部が異なる学生であっても研修前説明会や食事会で親しくなり、また、日本からフランスへの飛行機も同じ便を取った学生がほとんどであったため、研修先でもまとまって行動できたのではないだろうか。

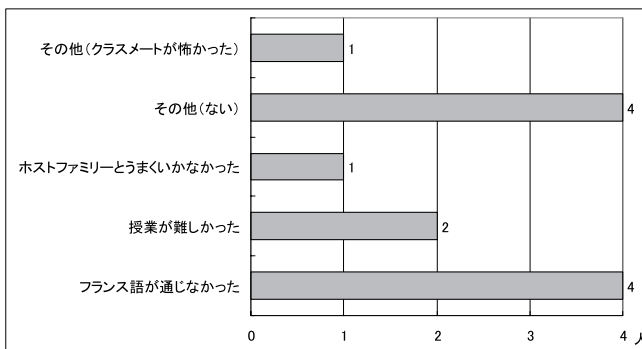


表9 研修で問題だったこと（複数回答）

研修で感じた問題はやはり言葉が最も多かった。しかし、問題がないと答えた学生も同数だったので、言葉が通じなくてもなんとかなった、ということではないかと考えられる。また、ホストファミリーとうまくいかなかったという学生は、ホストファミリーとしてすべきことはやってくれているので、相性が悪いだけで変えてもらうのはよくない、と我慢したようである。ホストファミリーは合わなかったら変えてもらえる、という説明はしていたが、実際にはなかなか変えてほしいと言い出せないのかもしれない。ホストファミリーとうまくいかないと、生活がおもしろくなくなってしまうので、ホストファミリーに問題がなくても、相性が悪いという理由だけで変えられることをきちんと伝えておくべきであった。

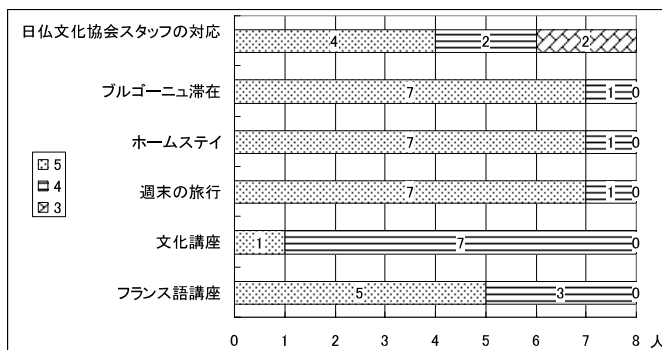


表10 研修の評価

研修全般の評価であるが、文化講座以外はいずれも5が最も多かった。文化講座はフランス語でブルゴーニュ地方の文化について講義がなされるもので、自由に取れるのであるが、語学の学習で精一杯だったのだろう。

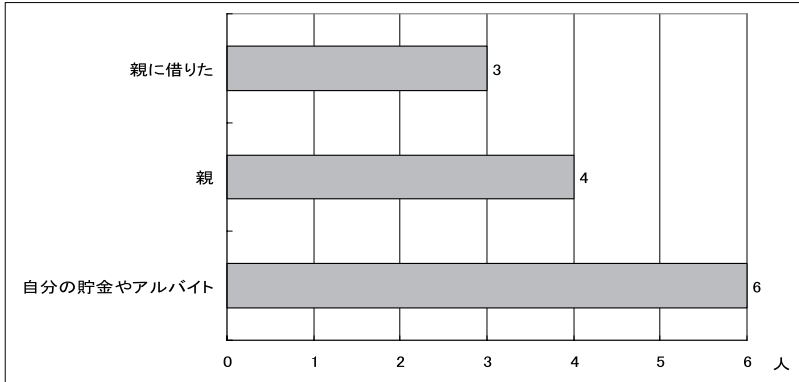


表11 費用の工面方法（複数回答）

研修参加を決める上で最も問題となる費用であるが、自分で工面した学生が多かった。やはり、春休み前に説明会を行い、春休み中になんとか工面する目途をつけてもらうと、研修に参加しやすいと言える。ほとんどの学生が自分で工面したお金と親のお金を合わせて参加していた。

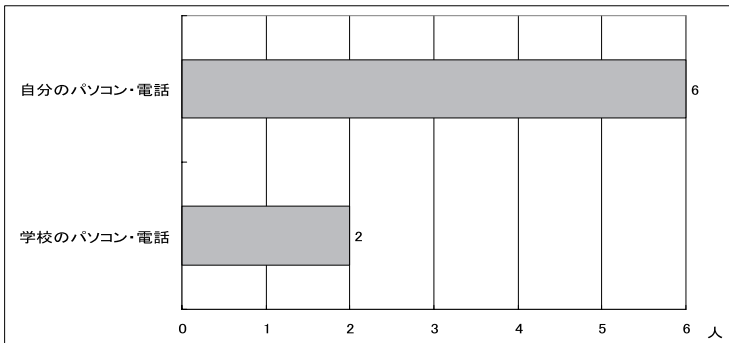


表12 日本との連絡方法

日本との連絡するために自分のパソコンや電話を使った学生が多かった。自分のを持っていかなかった学生も学校のものを使うなど、何らかの連絡手段が使えていたことが分かる。しかし、フランスに着いた時とクラス分けがあったときに連絡が数名から来ただけで、ほとんどの学生からは何の連絡もなかった。連絡するように、というだけではなく、何のために、いつ、どのように連絡をするべきなのかを説明したほうが良いと思われる。

最後に自由記述で来年度研修に参加したい後輩へのメッセージをお願いしたところ、全員がコメントを書いてくれた。以下にすべてのせる。

- ・楽しかったのでオススメ。
- ・外国の文化に触れる機会はそう多くないのでぜひ参加してください。
- ・楽しい、夢のような一ヶ月だった。
- ・ぜひ参加してください。準備（言葉・文化など）をしっかりとしておくにより充実したものになると思います。
- ・行くといいと思う、楽しいから。
- ・フランスが身近になる。規則正しい生活と適度な運動という人間らしい生活が送れる。
- ・フランス語が話せなくても何とかなる。旅行ではないのでフランス人の生活を生で実感できる。

研修前は受身的で、してもらえるのが当然であるような態度も見受けられたが、研修後はアンケートで全員がコメントを書くなど、積極的な態度が見られるようになった。また、フランス以外の海外にも目を向けるようになった学生がいるなど、四週間の研修を終えて、単に「楽しかった」、「フランス語が上達した」、といったこと以上の収穫を得た学生もいたようである。

6. 第二回研修での問題点

研修先の変更、説明会の開催回数と時間の変更を行ったことにより、説明を聞きに来た学生も、研修に参加した学生も増えたが、増えたことにより新たな問題も浮き彫りとなった。

① 管理・連携不足

研修申込書と申請書を提出しないと申し込んだことにならないと伝えてい

たにもかかわらず、申込書、申請書の提出状況が非常に悪かった。また、パスポートを取得したらすぐにパスポートのコピーを国際交流課に持ってくるよう言ったが、なかなか持ってこない学生がいた。さらに、国際交流課に申込書を提出したら、各学部で学生が個人で渡航願いを提出するように説明し、国際交流課でも再度説明したが、それでも出さなかった学生がおり、所属学部から苦情がきた。このことから、学生にすべきことを伝えるだけでなく、それをしたかどうかを担当者三人全員が把握しておく必要性を感じた。申し込みは国際交流課と日仏文化協会、渡航願いは所属学部、と三箇所それぞれに申請するものが異なっていたため、何をどこに出せばいいのか、なぜ出さなければならないかを説明会時に明確に伝え、資料にも書いておく必要があった。そして、それを期日内に実行させられるよう、学生の動向を三人が把握しておくべきであった。

説明会の募集についてはフランス語教員、留学生センター教員、国際交流課職員の三人の間で情報交換ができたが、学生とのやりとりは一人に集中しがちであった。学生と会う機会が多いのはフランス語教員であるため、集中するのはある程度仕方ないとしても、締め切りを守らない、提出物を出さないとといった事務的な不備については、国際交流課が把握しているにも関わらず、学生と連絡がとれないこともあったので、三人の中での情報交換は常におかねばならないと感じた。

② 負担の偏り

飛行機とTGVの予約は個人ですることになっていたが、一人で行くのが心細い学生はフランス語教員のところに相談に行き、他の学生と同じ便を予約させることにした。結果的に一人ひとりが都合のいい時間にフランス語教員の元を訪れることとなり、フランス語教員はその度に飛行機やTGVの予約の手伝いをしなければならず、かなりの時間と労力を取られることになった。個人予約のほうが旅行会社を通すよりも安くなりやすいが、過度な負担にならないよう、配慮が必要であろう。

③ 研修前説明会に参加できない学生への対応

研修に参加する全ての学生が都合のいいような曜日と時間を設定したつもりだったが、それでも参加できない学生が一名いた。この学生についてはフ

ランス語教員が個別に説明を行ってくれ、ここでもフランス語教員に負担をかけることとなってしまった。幸い申し込み等の提出物は期限を守って提出してくれたので問題はなかったが、今後は研修前説明会に参加できない学生がいた場合、事務的な説明事項はまとめて渡せるようにして、情報の漏れなどがないようにしたい。

以上は学生が増えたことにより生じた問題であるが、以下の一点については前回と同様の問題である。

④ 単位の読み替え

研修前にこの研修がフランス語Ⅳの単位と読み替えができることを説明しており、単位の読み替えに魅力を感じていた学生が一名いたが、単位の読み替えが可能なレベルのクラスに入ることができたのは三名で、三名ともフランス語Ⅳの単位が必要のない学生であった。残りの六名は下のクラスに入り、上のクラスに行くことを交渉せずに、そのクラスにとどまった。その結果、単位の読み替え申請をした学生は誰もいなかった。単位の読み替えは必須事項ではないが、大学として実施しているので、一人でも単位が読み替えられるクラスへ行き、単位を読み替えてもらえればと思う。

長崎大学が単位の読み替えクラスとして指定している初級クラスでは、長崎大学の学生が二年生の前期までに習っていない文法項目も既習項目に入っているため、初級クラスに入れるのは二年前期まで、さらに研修前まできちんと勉強した学生に限られるようである。そのため、初級クラスの下の入門クラスのほうが居心地はいいようであるが、初級クラスに入った学生は国際色豊かなクラスで、日本について、世界について考えるいい機会になったと話していた。入門クラスは日本人が多いので、このような経験はなかなかできないと思われる。このような単位の読み替え以外の魅力を次回の説明会では話し、一人でも多く上のレベルに行ってもらいたい。

5. 第三回研修に向けた改善

① 履修者の増加

フランス語履修者は年々減っており、新入生オリエンテーションでフランス語の授業案内をする時間も年々減っている。履修者が減ると、研修希望者

も減る可能性が高い。そのため、フランス語のホームページを作成した。長崎大学に入学を希望している、あるいは入学が決まった高校生にフランス語の授業の概要と夏季研修について知ってもらえるよう、担当教員紹介、授業紹介、CALL教室での授業やSKYPEによるフランス人との交流の様子、夏季研修の概要を載せた。また、フランス語自体あるいはフランス語の授業自体に興味を持ってもらえるよう、フランス文化の紹介やフランス語を履修している学生からのメッセージ、長崎大学にいるフランス語圏の留学生からのメッセージも寄せた。夏季研修については、入学前の学生だけでなく、フランス語を履修している在校生にも役立つ情報にするために、説明会の日程や研修の概要、研修参加者からのメッセージをのせた。

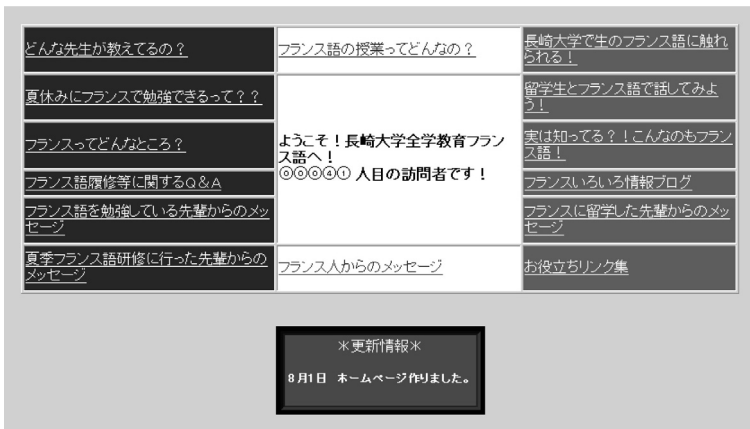


図1 フランス語のホームページ (<http://eririca.web.fc2.com/>)

② 情報の周知徹底

今回、説明会で伝えたのに理解していない、締め切りを守らないといった学生がいたため、次回の説明会の時にはいつ、何のために何をすればいいのかが一目で分かるような資料を作成し、それをしなければ次のステップに進めないようにしたいと考えている。すでに2月に概要説明会を行ったのだが、そのときに、国際交流課に申込書を提出する際にパスポートのコピーも提出することを説明した。また、研修前説明会に参加できない学生についても情報が行き渡るよう、あらかじめ資料を渡し、説明会の重要性を理解してもら

い、できる限り参加させるようにしたい。配布の資料の中に、連絡を取るときは常に担当者三人にメールを送ることを明記しておき、さらに、学生から直接三人に来なくても担当者三人で連絡を適宜取り合い、担当者間の連携不足も解消したい。

③ 研修に参加する学生の連帯感の育成

研修前説明会に参加しても、友人や同じ学部の知り合い以外と話す機会はなく、お互いの顔と名前が分からない状態であった。今回は四回目の研修前説明会の前に食事会に行き、そこでやっとお互いの顔と名前を知り、ある程度親しくなったようであった。行き帰りの飛行機も同じであった学生が多かったため、行きの飛行機内で親しくなった学生も多かったが、渡仏前から親しくなっておけば、渡仏前の情報交換や不安の解消、提出物の確認などもできたのではないと思う。同じ研修に行く学生同士は早い段階で知り合いになることが、研修先での情報交換や助け合いに役立つと思うので、一回目の研修前説明会でお互いを知るような活動をするなど、学生同士がまとまるような場を作っていく必要があると感じた。

④ 研修報告会のあり方

第一回研修の研修報告会は研修に行った本人が前日から体調不良のため、フランス語教員が本人から写真をもらって説明するという形で行った。第二回研修の研修報告会は、参加人数が多かったため、一人三枚程度の写真を選び、それについて説明してもらい、という形にしたのだが、三枚を選んだ学生が2人しかおらず、残りの学生は当日適当に三枚を選んで見せただけであった。研修報告会は研修に行った一区切りではあるが、一年生に夏季研修に興味を持ってもらうための研修報告会でもあるので、次回はこちらが大学の様子、ホームステイ先の様子、食事、などとテーマを指定し、それに関する写真を三枚程度選んでもらう形にすれば、「報告会」としての体裁が整い、一年生にも必要な情報が提供できるのではないだろうか。

6. おわりに

第二回研修に行った学生が12月に行った研修報告会には、20人程度の一年生が聞きに来た。さらに、2月2日に一年生を対象とした第三回研修の概要

説明会を行ったが、そこにも15名程度が聞きに来た。三回目ともなると、夏季研修があるという情報はすでに得ているようで、興味の持ち方が違うように感じた。すでに7名の学生が3月に飛行機の予約を取り、4月末に行った研修の詳細についての説明会後に2名増え、第三回研修は9名が参加することになった。第一回研修、第二回研修の経験を生かし、できるだけ問題を回避し、今後もよりよい研修が開催できるようにしたいと考えている。

謝辞 フランス語研修を進めるに当たっては大学教育センターフランス語担当教員大橋絵理准教授に学生の対応のほとんどをしていただいた。また、国際交流課宮地加菜美氏には申し込みの受付やカラーのポスターの作成、各学部への掲示依頼などをしていただいた。本研修はこの二人との連携なくしては成り立たないものであった。ここに記して感謝したい。また、フランス語研修に参加し、アンケートに答えてくれ、研修発表会で発表してくれた、フランス語研修参加学生にも感謝したい。

資料1 研修前アンケート

フランス語夏季研修 研修前アンケート

1. 研修に参加したいと思ったのはいつ頃ですか。

- ①フランス語を履修したときから ②12月の研修報告会に参加した時から
③1月に研修の概要を聞いた時から ④5月の説明会に参加した時から
⑤6月からの勉強会に参加した時から ⑥その他（ 月頃から）

2. 研修のどこに魅力を感じましたか。複数ある場合は①から③まで番号をつけてください。

- () フランスに行ける () 単位がもらえる
() 長崎大学が研修に関わっている () 生きたフランス語が学べる
() ホームステイ・寮生活ができる () 日帰り旅行などもできる
() 外国人の友達ができる () その他 ()

3. 研修で期待することは何ですか。複数ある場合は①から③まで番号をつけてください。

- () フランス語を上達させる () フランス文化を知る
 () フランスを見る () 友達を作る
 () その他 ()

4. 研修で不安に思うことはありますか。複数ある場合は①から③まで、番号をつけてください。ない場合は「その他」に「ない」と書いてください。

- () フランス語が通じるか () 病気にならないか
 () 事件・事故に巻き込まれないか () 授業についていけないか
 () 研修先まで無事に着けるか () その他 ()

5. どの研修説明会に参加しましたか。

- ① 12月の研修報告会 ② 1月に研修の概要
 ③ 5月の説明会 ④ 6月からの勉強会

6. 説明会の情報はどのように得ましたか。

- ① 友だちから ② 掲示板のポスターから
 ③ フランス語の先生にもらったプリントから ④ その他 ()

7. 以下の研修説明会は必要だったと思いますか。必要だったと思うものに○をつけてください。

- ① 12月の研修報告会 ② 1月の研修の概要
 ③ 5月の説明会 ④ 6月からの勉強会

8. 研修説明会で説明してほしいことがあったら、書いてください。

資料2 研修後アンケート

フランス語夏季研修 研修後アンケート

1. 研修で何がよかったですか。複数ある場合は①から③まで番号をつけてください。

- () フランスに行けた () 生きたフランス語が学べた
 () ホームステイ・寮生活ができた () 日帰り旅行などができた
 () 外国人の友達ができた () 他学部の学生と知り合えた
 () フランス語が上達した () フランス文化が知れた
 () その他 ()

2. 研修で問題がありましたか。複数ある場合は①から③まで、番号をつけてください。ない場合は「その他」に「ない」と書いてください。

- () フランス語が通じなかった () 病気になった・けがをした
 () クラスメイトと衝突した () 他学部の学生と衝突した
 () 事件・事故に巻き込まれた () 授業が難しかった
 () ホストファミリーとうまくいかなかった
 () その他 ()

3. 研修で、以下のことはどうでしたか。「5とてもよかった～1全然よくなかった」から選んでください。

	とてもよかった←			→全然よくなかった	
フランス語講座	5	4	3	2	1
文化講座	5	4	3	2	1 (選択しなかった)
週末の旅行	5	4	3	2	1 (行かなかった)
ホームステイ	5	4	3	2	1
ブルゴーニュ滞在	5	4	3	2	1
日仏文化協会スタッフの対応	5	4	3	2	1

4. 研修費用はどのように工面しましたか。

- 自分の貯金やバイト代 親
 親に借りた その他 ()

5. 日本との連絡はどのようにとりましたか。

- 学校のパソコン・電話 自分のパソコン・電話
 ホストファミリー宅のパソコン・電話 連絡しなかった

6. 来年度研修に参加したい後輩にメッセージをお願いします。

参考文献

伊田美有紀 (2010) 「第一回フランス語海外語学研修実施報告」『長崎大学留学生センター紀要』18号 pp.97-106

(留学生センター 講師)